

## 【日商簿記検定 3 級】決算整理仕訳問題

以下の決算整理仕訳を示しなさい。なお、資料 1 は決算整理前残高試算表である。当期は 20X1 年 4 月 1 日から 20X2 年 3 月 31 日の 1 年である。なお、商品売買の記帳方法は 3 分法によること。

### 決算整理事項等

1. 従業員が出張から帰社し、旅費交通費の精算をした結果、残金 ¥10,000 を現金で受け取った。しかし、この取引が未記帳であった。なお、この従業員には旅費の概算額として現金 ¥100,000 を仮払いしていた。
2. 売掛金 ¥50,000 が当座預金口座に振り込まれていたが、この取引が未記帳であった。
3. 受取手形および売掛金の期末残高に対して 2% の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
4. 期末商品棚卸高は ¥90,000 であった。
5. 収入印紙のうち ¥6,000 は未使用だったため、貯蔵品勘定に振り替える。
6. 備品（耐用年数 8 年、残存価額ゼロ、定額法により減価償却を行っている）の減価償却を行う。
7. 建物（耐用年数 10 年、残存価額は取得原価の 10%、定額法により減価償却を行っている）の減価償却を行う。
8. 保険料は、今年度の 12 月 1 日に契約したもので、12 月 1 日に向こう 1 年分（¥48,000）の保険料を一括して支払っている。決算にあたり、保険料の前払分を繰延べる。
9. 受取地代の中には 9 月 1 日に向こう 1 年分の地代 ¥24,000 を受け取っている。決算にあたり、地代の前受分を繰延べる。
10. 法定福利費の未払分が ¥24,000 あった。
11. 給料の未払分 ¥60,000 があった。
12. 消費税の処理（税抜方式）を行う。

13. 税引前当期純利益に対する税率は 30%である。決算にあたって、法人税、住民税及び事業税を計上する。なお、当社は法人税等の中間申告を行っている。

資料 1 決算整理前残高試算表

借方	勘定科目	貸方
600,000	現金	
500,000	当座預金	
120,000	受取手形	
150,000	売掛金	
100,000	仮払金	
48,000	仮払法人税等	
20,000	仮払消費税	
57,000	繰越商品	
600,000	備品	
1,000,000	建物	
1,600,000	土地	
	買掛金	160,000
	借入金	1,000,000
	仮受消費税	40,000
	貸倒引当金	2,400
	備品減価償却累計額	150,000
	建物減価償却累計額	360,000
	資本金	1,800,000
	繰越利益剰余金	784,200
	売上	1,800,000
	受取地代	100,000
1,060,000	仕入	
204,000	給料	
40,000	旅費交通費	
13,600	法定福利費	
60,000	租税公課	
24,000	保険料	
6,196,600		6,196,600